夢が目標に変わるとき　新しい自分の始まり

校長　田口　利一

早いものでもう立春です。
新しい年を迎え、その時に描いた夢や目標に向かって、一歩一歩前へ進んでいることと思います。

子どものなりたい職業の比較			
		1970年	2017年
男の子	１位	エンジニア	学者・博士
	２位	プロ野球選手	野球選手
	３位	サラリーマン	サッカー選手
	４位	パイロット	警察官・刑事
	５位	電気技師	医師
女の子	１位	スチュワーデス	食べ物屋
	２位	デザイナー	看護師
	３位	先生	保育園・幼稚園の先生
	４位	看護師	医師
	５位	タレント	学校・習い事の先生

「あなたの夢は何ですか？」
と聞けば、年齢などによって違ってくると思いますが、自分がつきたい職業のことや生き方に関する大きな夢から、身近な夢まで様々あると思います。

大阪万博のあった１９７０年当時、夢のように感じた無線電話は実現し、ロボットや自動車の自動運転も日々進化しています。いろいろと便利になった現在でも、夢をもち、人生の目標を設定することは、生きるエネルギーとなり、充実した毎日につながっていくと思っています。

その「夢や目標をもつ」にはまず、自分ならばできそうだという気持ち（自己効力感）がなくてはなりません。自己効力感を高めるには、まず目標を達成した経験の積み上げが大事になってきます。学校では学級での活動や行事で、個人や仲間との達成経験や自分のよさの自覚ができるように取り組んでいます。（学習、児童会活動、一輪車演技、チャレンジタイムなど）

人は成長するにつれて現実的になったり、恥ずかしさも出てきたりして、堂々と夢や目標を語らなくなると言います。本当にやりたいことがわからなくなる時もあると思います。そんな時はあせらず自分の進路は自分で決められるように見守ることも必要になってきます。

以前勤めていた中学校で、中国で行われる国際駅伝に参加することになり、子どもを引率しました。その大会に参加した子の一人が、「箱根駅伝に出たい」と言いました。この子は、見事夢を叶え、全国高校駅伝、都道府県対抗駅伝、箱根駅伝（６区）、ニューイヤー駅伝等で活躍しました。家庭では夢に対して無理だとは言わないで、「いいね。どうしてそう思うの？」などと前向きな言葉かけをしてくださったのではないでしょうか。そうすることで意欲がわいて、自分のやるべきこと（目標）がはっきりしたのだと思います。

子どもたちが自分の夢や目標をもてるように、そしてそれを叶えられるように、今年も学校、家庭、地域が力を合わせていきたいと思っています。よろしくお願いします。

＜１月の活動から＞

○書き初め会

１・2年生は硬筆を教室で、３～6年生は毛筆を１階ホールで各学年の課題の文字を書きました。
緊張した空気の中、みんな真剣に取り組みました。

金賞の作品

○表彰者

（金賞）
(銀賞)
(銅賞)

○大縄跳びの練習

1月中旬から大縄跳びの練習を開始しました。４つあるなかよし（縦割り）班の2グループが１つになり、全校が２チームに分かれて３分間に跳ぶ回数を競います。
チームごとに目標回数を決めて、朝活動や休み時間に練習しています。最初は高速で回る縄に向かって入っていくのが怖かった子も、上級生のアドバイスを受けて上手に跳べるようになってきました。
飯地小だけでは２グループで競うだけになりますが、同じルールで取り組んでいる県内の他の学校のチームと、インターネット上に登録される記録を見て、競い合ったり励みにしたりします。
２月７日（水）の本番（飯地小の記録会の日）に向けて、さらに練習を頑張っていきます。

◎表彰◎　☆おめでとうございます。

＜岐阜県読書感想画コンクール＞

高学年優秀
　　佳作
低学年優秀
　　佳作
　　佳作

２・３月の予定

＜2月＞
7日（水）大縄大会
9日（金）動物愛護教室
14日（水）こども園の園児と交流（1・2年）
17日（土）授業参観・PTA総会
22日（木）まんさく訪問交流（1・2年）
27日（火）命を守る訓練
＜3月＞
2日（金）6年生を送る会　学校評議員会
23日（金）卒業式
26日（月）修了式　離任式